研究者が化石産地にもたらしたもの

松本達郎と三笠の繋がり

北海道から遠く離れた九州大学に勤務していた松本達郎ですが、ほぼ毎年、夏になると北海道を訪れ、地質調査や化石採集を行っていました。定年退官後も、亡くなる直前まで北海道で調査をしていました。三笠も、定宿とする民宿があるほど頻繁に訪れました。広大な北海道を1人で調査するのは不可能ですから、松本の北海道調査には、大学教員となった教え子や、他大学・博物館の古生物学者が同行することもありました。しかし実は、松本の調査に大きな役割を果たしたのが、北海道在住の**アマチュア化石コレクター**たちです。

当時も現在も、北海道には、趣味で化石採集を行うコレクターたちがたくさんいます。こうしたコレクターたちは、アンモナイトについて豊富な知識を持ち、またアンモナイトの産地についても詳しい情報を持っています。そのため松本も、コレクターたちを頼りに、北海道での調査を行ったのです。

また逆に、松本が化石コレクターたちに、当時最新のアンモナイト研究の成果を伝えることもありました。三笠市内では定期的に化石研修会が開かれ、松本が講師として呼ばれていたようです。ともに協力し合いながら、自らの研鑽に努め、北海道のアンモナイト研究を前進させていったのです。

1983年8月25日に、三笠市立博物館で開催された研修会で、アンモナイトについて解説する松本達郎（写真中央に立つ人物）。